

# WACATE WACATE Magazine Vol.44

## 🍁ご挨拶🍁

WACATE-Magazine をご覧の皆様、こんにちは。  
WACATE-Magazine 編集部です。



急に風が冷たくなり、あわててコートを出しました。  
写真は名古屋は熱田神宮内の紅葉です。

また空気が乾燥してきて風邪も流行しているよう  
ですが、皆さまどうかご自愛くださいね。

さて、直前となりました WACATE2012 冬。  
いよいよ待たなしですね！  
熱い冬を楽しみましょう！

それでは WACATE-Magazine vol.44、  
はじまるよー！

## 🍁お品書き🍁

### 【特集1】

WACATE2012 冬セッション紹介

### 【特集2】

JaSST' 12 Kyushu Report!

### 【特集3】

JaSST' 12 Hokkaido Report!

### 【特集4】

脱がっかりツアー

### 【リレーコラム】

Software Test Topics

### 【連載】

源太郎のソフトウェアテスト占い

### 【あとがき】

## 🍁WACATE Topics🍁

WACATE2012 冬 12/15, 16 にて開催決定！

WACATE2012 冬後夜祭

募集中です！

お申込みは [★こちら★](#)

# WACATE2012 Winter

## — 直前セッション紹介! —

こんにちわっす  
うえだです♪♪♪

WACATE2012 冬までもうすぐですねー^^

本当に「あっ」と言う間という言葉がピッタリですね。  
みなさま、参考書籍を読むなど準備は万全でしょーか?  
WACATEのホームページに今回のWACATE2012 冬のプログラ  
ム概要が掲載されていますが、各セッションの概要な  
どが載っているところに、それぞれのセッションで参考  
となる書籍が掲載されています。  
是非見てみてください^^

さて、前回のマガジンでは、WACATE 実行委員により行わ  
れるセッションのコメントを掲載しました。  
今号も引き続き「どんなセッション?」といった概要を  
掲載したいなと思います。

BPPセッション、モーニングセッション、イブニングセ  
ッション、クロージングセッションの4つをご紹介します  
しますー^^

### ■BPP セッション

ご講演者: 島山さつき様

タイトル: かえる井の中ふりかえる 私のテスト自動化  
経験

WACATE2012 夏、ソフトウェアテストの大海原に飛び出し  
たばかりの私から、テスト自動化経験と半年の加速の成  
果を発表します! 初めての大会に戦々恐々としていま  
すが、少しでも何か持ち帰ってもらえるようなお話しに  
したいと思っています。よろしくをお願いします!

### ■イブニングセッション

ご講演者: 清水吉男様(システムクリエイツ)

タイトル: プロセスで遅れを消す方法

PPFDは、基本的には自分のプロセスを表現するためのツ  
ールですが、単にダイアグラムを書いただけでは、はた  
してよく考えられたものかわからず、実現性に不安が残  
ります。

考えたプロセスに沿って確実に実現するには、成果物と  
プロセスの定義書を伴う必要があり、それによって「シ  
ミュレーション」が可能になり、身に染み込んだ従来の  
やり方を薄めることができます。つまり、ここで初めて  
「プロセス改善」が可能になるのです。

さらに、遅れが生じた時に、同じ結果を得る別のほ方法を  
考えだすこともできます。それがPPFDの真価なのです。  
短時間ですが、簡単にその仕組みを説明します。

### ■モーニングセッション

ご講演者: 村上くにお様(NHN Japan 株式会社)

タイトル: 「キャリアプラン」はじめの一歩

何度かの転職の中で培った、テストエンジニアとしての  
マインドと今後のキャリアを考える上で、いまのポジシ  
ョンから若手の方々への期待について、お話をさせてい  
だきます。

### ■クロージングセッション

ご講演者: 松尾谷徹様(デバッグ工学研究所)

タイトル: CFD+~デバッグ工学の夢~

ソフトウェア工学は、①コンピュータに行わせたいこと  
を明らかにする要求、②関係する人々に説明できるよう  
整理する設計、③コンピュータに解る言語に翻訳する実  
装、この3つの流れを正確に行うことを目指しました。  
50年に及ぶ努力を振り返って、さらに、④コンピュータ  
や関係者が理解したことを確認し、フィードバックとリ  
ペアを行う: 広義のデバッグが必要であることに気づき  
始めたのです。デバッグ工学は、④を合理的に行うこと  
を目的としています。CFD(原因流れ図)は、その手段の  
一つであるテスト技法です。原因結果グラフの難点を解  
決する技法として、コンピュータが理解すべき論理  
(logic)を制御フローから決定表に変換します。20年  
以上前に生まれた技法であり、解決できていない課題を  
沢山持っており、未だに試行錯誤を繰り返しております。  
今回は、「最初の+」①、②へのフィードバックと、「2  
番目の+」データフローへの対応を加えたCFD++につ  
いて、概要をお話しします。

概要

#### 1. CFD 誕生の背景

突然、OSの品質保証をまかされた時、品質会計の発案と  
テスト部隊の強化で乗り切る。

#### 2. わけのわからない仕様の理解

原因結果グラフを使ってテストの生産性4倍にした作戦  
と得た課題。

#### 3. 組合せの原因は論理の問題

要求段階、設計段階で論理を明らかにする必要性から、  
ビジネスルール/制御ルールと機構が持つ論理の整理に  
単適合決定表と多重適合決定用を使い、テストと連結す  
る。

#### 4. 状態遷移やデータフローの問題

組込み系を始め、複雑な制御のテストには、挙動に対す  
るタイミングや時系列が必要となる。そのための拡張に  
ついて。

#### 5. デバッグ工学

ソフトウェアにおいて、改善型のアプローチが成功しない  
のは、繰り返しの効果が無いからです。そこで、改善で  
はなくリペアのプロセスとしてデバッグを考えます。

#### 6. まとめ

今回のWACATE2012 冬も魅力的なセッションで構成され  
てますっ!!

参加者の皆様、是非当日はがっつりセッションにのめり  
込んでいただいて、気づきや学びなどをいっぱい持ち帰  
って、実践や展開などしていただけると嬉しい限りです  
^^

(うえだ)

# JaSST'12 Kyushu Report

今年の JaSST 九州は鹿児島！！わーい♪焼酎だ白熊だー☆  
(違)

九州は毎回開催地が変わるのですが、新鮮さがあり、新たな出会いがあるところが魅力だと思っています。

一方ですっかり恒例となったポスターセッションでは、毎回九州の学生さんによる研究発表があり、こちらも九州の魅力だなあと思っています。

そんなわけで魅力たっぷりの JaSST 九州を、ライトに振り返ってみたいと思います^^

## ■基調講演

「アジャイル・Ruby・クラウド (ARC) を活用したビジネスにおけるテストの実践」

倉貫 義人 氏

かつて「てすバナ」で「この人の話が聴きたい！」という人に名前があがっていただけに、倉貫さんのお話が九州で聴ける♪と楽しみにしていました^^

講演は、「テストの理想を現場視点で実現する」というテーマを掲げて始まりました。

主に倉貫さんがソニックガーデンで実現させていることを紹介しながら話は進んでいきます。

## ■セッション概要

ソニックガーデンで開発しているソフトウェアの特徴としては、「完成して販売ではなく、継続的にサービス提供」「自動的にバージョンアップがずっと続いていく」「不具合が無いからといって、儲かる訳ではない」という3点があり、その背景から、「ソフトウェアそのもの」を売っているのではなく「ソフトウェアが使えること」を売っている。これは交通機関が乗り物を売っているのではなく「移動のために使える状態を売っている」と同じ。従って「完成すること」から「持続すること」へのパラダイムシフトが必要である。品質についても「Point of Sales」(買った時点が最高でそこから陳腐が始まる)ではなく「Point of Use」(常に使っている時点で最高・最新のものを利用できる)であるために、継続性と保守性を重要視する。

上記のことを実現するために、ソニックガーデンのビジネスモデルは納品型の受託ではなく、サービス型の受託である。開発及び運用を月額定額でチームを固定して提供する。いつでも要求を変更することができ、顧客は作り手と直接対話することができ、テスト環境もいつでも用意されている。

テストの理想を現場視点で実現するという事は、テストの目的をビジネス視点で考えることである。

## ■セッション感想

かくあるべきだよな、ということを実践できている点はや

はり素晴らしいと思いました。やはり理想を掲げても実現できてなんぼだと思ってはいて・・・すこしでも実現できるところを探していく努力をしていこう、と思っています。「テストの目的をビジネス視点で考える」というのは大事ですね^^

もう一つ、倉貫さんの基調講演で印象に残ったのが、「出来る量で嘘をつかないという「信頼」が重要」ということ。信頼は、どの役割にいても、ものすごく大事です。

## ■ポスターセッション

会場に併設されていたポスターセッション会場。いつもながらポスターを前に説明したり参加者からフィードバックをもらったりと、賑やかでした。

ポスター会場だけでなく、LTも行われるのが九州のポスターセッションの特徴です。なかなかポスター前に行く勇気がでない私のような人も安心して聴けるのがありがたいところ^^

## ■招待講演

「世界最初の“モバイル”テストエンジニアがみた'00年代とこれから」

松木 晋祐 氏

WACATEにもよく参加していただいている松木さんの講演です！いつもながらアツク講演されていましたよ☆

## ■セッション概要

Joel Spolsky が提唱した「5つの世界」には、「パッケージ」「インターナル」「組み込み」「ゲーム」「使い捨て」がある。それぞれの世界にコンテキストが存在する。

1999年にi-modeが誕生し、世界初の「モバイル」が始まった。モバイルは当初組み込みとして扱われていたが、組み込みとは異なる点も持ち合わせる、世界の「生まれかけ」の状態であった。その後、スマートフォンの普及により、モバイル業界は超垂直統合型から分散オープン型へ一気にシフトする。こうして「モバイル」の世界が成立した。

モバイルのコンテキストとして「圧倒的な支配者がいる」「電池で動く」「電波で繋がる(空気のようにウェブが使える)」「プライバシーの塊」「映像と音声の双方向 I/F を持つ」「他のどの世界より容易にアップデートが可能」が挙げられる。そしてスマホモバイル時代のアプリ品質要素としてはセキュリティ&プライバシーが1番優先度が高い。個人情報取り扱いがクリティカルな要素になっている。また、タッチデバイスが標準になったために、ソフトウェアに委ねられるユーザビリティの割合が増加している。

そこで、センサーデバイスとセキュリティの話に特化し、事例をもとに解説する。センサーデバイスについては、センサーがもともと精度を期待できないため、境界値分析に

はあまり意味がなく、範囲を同値分割してテストデータを作成するほうが効果的だった。

**セキュリティとプライバシー保護は別の概念であり、この2つを一緒に考えないことが重要。**また、**プライバシー保護はセキュリティが前提となるため、まずはセキュリティの確保を先に行う。**セキュリティ確保に向けてテストエンジニアができることは、P/F(プラットフォーム)の特性を知ることとセキュリティテストの基本方針を知ること。プライバシー保護に向けてテストエンジニアができることは、アプリケーションがアクセスする個人情報/履歴を明らかにし、利用方針とその「機能性妥当性」を検証することと、いろいろな立場のエンドユーザを代弁すること(一部特定の方々にとても必要なサービスに対する検討)。

今、**7つ目の世界**として、**クラウドの時代**が来ている。クラウド世代のテストエンジニアに求められるスキルとして「**テストエンジニアリング基盤**」「**フロントエンドウェブ技術**」「**出荷判定から KPI へ(サービス総体としての品質が解る指標とそのテストの方法)**」「**TAT(ターンアラウンドタイム)を高めるためのテスト自動化**」の4つを予測している。ソフトウェアテストは「**わかる**」ための**技術**であり、**クラウド時代のテストは「わかる」+「製品の今を知る」技術**である。

#### ■セッション感想

私が普段扱っていない製品ということもあってあまり理解できていないのですが(すみません><)、それでも「UXの標準仕様がある会社の製品には使用性標準適合性がある」など、気付きも多かったです。

テストは製品の今を知る技術、というのは同意です。ただ個人的には、大事なのは知ってから先どうするか、だと思ったりします。もっともそこはテストでどうこうする話ではないのですが^^;そこにテスト担当者が関わる必要はあると思っています。

#### ■ミニパネルディスカッション

「**どうテスト技術を現場に浸透させるか**」

コーディネータ：山崎 進 氏

パネラ：倉貫 義人 氏/松木 晋祐 氏

坂元 忠重 氏/野崎 弘幸 氏

ご講演いただいた倉貫さん、松木さんが「**理想**」、地元の坂元さん、野崎さんが「**現実**」という立場で、参加者からの質問をネタに、参加者も巻き込んでディスカッションするという企画でした。「あー、あるある」と言いたくなるような現実的な質問がいろいろ寄せられていました。

「OSS にバグがあって手が出せないときはどうする？」という質問に、松木さんが「手がだせないわけがない」という回答をされていましたが、これは私もそうだと思います。OSSに限らず、自組織で作っていないソフトに共通することだと思っていて、手を出せる範囲で解決策を探りつつ、情報提供していくのが理想であり現実にしていく必要があると思います。

あと印象に残ったのが「メンバー(プログラマ)が突然いなくなる」という悩み。例えば交通事故などでいなくなっても問題が無いようにお客さんとのやりとりはサポーターを

つけたり、ソースコードを読みやすくし、情報共有をしっかりしておくこと他に、「**社員が突然辞めたいと思わないような会社を作ることが1番大事**」という回答を倉貫さんがされていました。この意識は経営者に限らずひとりひとりが意識すべきことなんじゃないかな?と思いました。

どうやらこの時間では語り足りなくて、夜中にみなさんと再度ディスカッションしていたらしいですよ(私がホテルのチェックインをして到着したときには雑談になっていましたがw)

#### ■情報交換会

情報交換会は会場を変えてお店貸切で行われました。え?!こんなにいるの?!というくらい参加された方の情報交換会出席率が高く、皆さん席替えをしながら盛り上がっていました^^また、倉貫さんや松木さんが熱心に参加者とお話をしている姿が印象的でした。その後も夜が長かったとか、焼酎1杯300円とか400円とか安すぎてなんじゃこりゃ?!と思ったとか・・・www

#### ■全体をとおして

今回は特に、「これからどういうことを意識していくべきか」ということを考えるよいきっかけになりました。売ってなんぼ、ではなく、使ってもらってなんぼ、という考え方、**利用時品質「今どうなの?」が大事になる**、ということは、周りも自分もきっとなんとなく感じ始めているのだけど、特に組み込み側にいるせいもあるのかもしれませんがそういう意識がまだ薄いなぁと思いました。。それ以前の問題が目の前を塞いでいるからというのかもしれませんが^^;

ビジネスに直結させるという点では、JaSST 北海道の森崎先生の基調講演にもそういう点が感じられました。「**品質が競争力の源泉となっており、その品質に対して顧客やユーザが価値を認めて対価を支払っている**」状態を品質向上活動のレベル4(最高位)として位置づけていました。こちら、品質向上活動をする上で自己満足で終わらずビジネスに直結させる、という意識は、特に大きな組織に属する技術者だとどうしても薄くなりがちで、そこは今後みんな学んでいく必要が有るところなんだろうな、と思ったのです。

更に JaSST 関西の飯塚先生の基調講演からもつながっているとあるなぁと思いました。**組織が成功するために事業において勝負を分ける能力と事業利益の源泉を把握する必要があると。そして競争優位となるために品質マネジメントが大事だ**と。

・・・そんなふうに、各地の基調講演の話がつながっている気がしたのです。各地の JaSST をめぐるのは面白いです^^本当に♪おススメ!

(ばんばん@今年も全国制覇しましたよ!)

# JaSST'12 Hokkaido Report!

さる 10/26、北海道は札幌市教育文化会館にて JaSST' 12 Hokkaido が開催されました！

今年の北海道は、秋の味覚のごとく、とにかく盛りだくさんの内容でした！！

基調講演や事例発表のほか、ビブリオバトル、ポスターセッション、テスト設計コンテスト、レビューのワークショップやチュートリアルなど、どれも非常にレベルが高く素晴らしいセッションばかり！！いやあすごかった。

ゼーンぶお伝えしたいのはやまやまですがっ・・・今回はその中から特に基調講演とレビューワークショップについてレポートをお届けします♪

## ■頑張るだけの品質向上からの脱却

静岡大学 情報学部の森崎修司氏による基調講演です。

### ◆品質向上活動の5つのレベル

品質向上の活動を自分の経験に基づいて4つのレベルに分解し、何もしていない段階と合わせて5つのレベルで表現してみた。

LV0:品質向上とは関係ない仕事をしている

LV1:個々人が思い思いの品質向上活動をしている

LV2:関係者が合意した上で品質向上活動が出来る

LV3:LV2のうち、他組織ではマネが難しいものが分かっている

LV4:LV3のうち、競争力の源泉となっているものが分かっている

### ◆レベル0

・工数と進捗状況をまとめて終わりのような、品質向上につながる活動をしているようにも見えるが実際には**効果のない活動をしている**

活動の意味を理解せず形だけ実施している組織にありがちな問題として、思い当たる節もあり耳が痛い話でした。レベル0の現場においては、品質向上活動は自分以外の誰かの仕事としか考えられていないのかもしれない。

### ◆レベル1

・各々が品質向上につながると考え、**活動をしているが合意または統一されていない**

自分の担当範囲だけは品質向上活動をしているようなものではないでしょうか。関係者とのコミュニケーションが少ない現場や、細かく役割分担されて全体が見えない現場などがレベル1に相当するのではないかと思いました。

### ◆レベル2

・関係者の間で求められる品質が**合意できている**  
・合意できた品質の向上に役立つ活動が出来ている

関係者間で合意出来るかどうか一つ一つの壁だそうです。合意内容によっては相手のために自分の負担が増えるケースもあり得るでしょうし、両者にとって納得出来る合意を得るには信頼関係が必須なのではないかと思いました。

### ◆レベル3

・どの様な活動によって**品質向上が実現されているか**が分かっており、品質向上活動の効果が出ている  
・競合となり得る**他の組織では簡単に模倣することが難しい**

他社と比べて自社の強みを把握した上で、かつ全員参加で品質向上活動を実施しながら定期的にその効果を振り返って活動を改善している様な組織がレベル3に相当するのではないのでしょうか？

### ◆レベル4

・ある**品質が競争力の源泉**となっており、その品質に対して顧客やユーザが価値を認めて対価を払っている  
・特定のソフトウェア、サービス、製品のプライスリーダーになることができる

レベル4の例として「モデル化とシミュレーションの技術を高めることで、試作品の作成や実験による試行錯誤が減り、短納期を実現できた」と紹介があり、レベル3では品質問題を解決していくことに対して、レベル4ではそこに加えて品質向上活動自体が製品に対して新しい価値を創造している状態なのではないかと思いました。

### ◆アンチパターン

問題を見つけても、品質向上活動につなげず終わりにしてしまうパターンについても発表していました。

①**自分と自分以外の人たちの間で線引きをして**

「**自分を含まないグループ**」を作る

②**自分を含まないグループに対してルール違反や勉強不足などの欠点を指摘し批判する**

③**批判して安心して終わり**

発表を聞いて、自分も線を引いていることがあり耳が痛くなりました。またアンチパターンを裏返して見ると、相手の側に立った上で一緒に問題に向き合って改善していくことが大事なのだと思いました。

### ◆まとめ

品質向上活動には複数のレベルがあり、単純に技術、技法の延長線だけでは上手く行かないことがある。相手との合意、他の事例との比較、競争力の分析が必要になる。

他の事例のマネだけでは上手く行かない。普段の活動を定期的に見直し、本当に品質向上に繋がっているか振り返る機会を持とう。

(おたべ)

### ■チュートリアル・ワークショップ TEF 道聡美塾 Presents 何想 SATOMI 発見伝 ～レビューよ、導きたまえ～

今回のワークショップでは要求仕様書をもとに本来であれば書かれていなければならない事項をどのように見抜いていくかを体験していきましました。効率的に効果的にレビューをするにはどのようにレビューを行うと良いのか、レビュー運営の問題点を肌で感じてみるワークショップでした。

1班あたり4,5名程度でチームビルディングを行います。班名を決めて、リーダーや書記、タイムキーパー等の役割をつけます。(某 WAOATE みたいですねw)

さて、チームビルディングを終え、まず初めに、配られた【要求仕様書】を個人でレビューしました。要求仕様書に書かれていない検出欠陥として問題事項を洗い出し、次に自身が検出した欠陥を「**どういった観点**」で「**どのような目的を達成するため**」の指摘なのかを整理しました。

そして次にグループワークではそれぞれの個人ワーク結果を持ち寄って、**どんな観点や目的で欠陥を検出したのか**を整理していきましました。

私のいた班では「プログラマ1:開発 Mgr1:品質 Mgr1:テスター1」と偶然にもバランスがよく、日々の業務経験をもとに、様々な観点で指摘事項が挙がりましました。ドキュメントとしての品質やユーザー操作性、開発工数を意識して何処まで機能を搭載するか、製品として何処までの品質でリリースするのか(市場に出るものは改修などのリスクを考えて品質水準を高く保つが、社内で利用するだけならスピード重視で最低限の品質ラインを決めて振り分けてもいいのでは?)等の意見もあり、幾つかは被っている内容もありましました。日々の業務で培われた経験から、皆さん重視する観点が異なり勉強になります。

次に、要求仕様書ができた【プロジェクトの背景(要望)】と【品質特性の参考情報】が配られました。先ほどの要求仕様書と合わせて、再度個人ワークとグループワークを行いました。最初はどんな欠陥があるか?から、それをどうい

う観点や目的で見つけたのかを整理しましたが、今回は「**どんな立場**」で「**どんな観点**」でレビューをすると「**どんな欠陥が出てくるのか**」を、先ほどの流れを逆流して実施していきましました。

最初の個人ワークでは日々の業務を思い返して、それぞれで指摘をしてきましましたが、私の班ではここではあえて立場を変えて行ってみましました。部長のゴマすり(?)などの立場を作ってみたりして、普段見ている視点ではなく違う視点から見て、洗い出した欠陥はまた違う問題を教えてくれましました。

利用者ユーザとしては何処を重視するのか、要望を出したユーザとしては何がクリアされないかプロジェクトとしては失敗になってしまうのか(部長のゴマすりは部長に怒られてしまうのか?)等、いつもと違う視点が新鮮でした。**ひとつの視点しか見ていないと、それがすべてになりがちですが、少し引いたり、横にずれたりして立ち位置を変えるだけで見えてくるもの(欠陥)が異なる面白さを感じましました。**

2回目のワークでは、立ち位置をはっきりさせた上で、**観点を定めてから欠陥を抽出したこと**で、普段何となく指摘している事項が、実は〇〇性という品質特性の観点だったのだと気づかされ、ずとんと何かが腹に落ちた気がましました。

自身がいつも見ている視点を**はっきり伝えられ、何となくレビューしていた自分は、何を(重要に)想って欠陥検出していたのか**を**すっきりさせる**ことができましました。また、**足りない観点にも気づくことができ**とても興味深かったです。

また、最初に観点を決めてから欠陥検出を行ったことで、**指摘事項がグループ内であまり被らず、様々な品質特性を多少幅広く網羅できた**気がまします。これは**無駄に被ることを防止し、効率よくレビューするのに必要なこと**なのだと思いまします。

そしてチームでレビュー運営する際には、**とにかく様々な立場の人を集めてレビューすることで、偏った観点での開発を防止**することができると思いましました。**考えられるアクターを揃えて、もしくは想像して帽子を被ってみることで、時に閃くこともあるか**もしれまません。

レビューでは書かれている要求仕様書だけを見つめるのではなく、そのプロジェクト背景を把握し、関係するアクターを集めて(想像して)、様々な観点を**持つて行う**ことが**重要な**のではないかと想いましました。

(いのみん)

# JaSST'12 Hokkaido スピンオフ企画 TEF道Presents 脱がっかりツアー第三弾！！

JaSST' 12 Hokkaido の翌日は、TEF 道の皆様が主催してくださる、お楽しみの脱がっかりツアー！今回はいつものグルメ観光とは一味違うツアーを堪能してきました。

総勢 23 名。事前に配られた JoJo テス太郎チケットの裏にある番号から組分けがされました。今回のプロデューサーは nemorine さん！iPad で今回のツアー概要を説明していただきました。

## その名も【サイコロツアー★】

指定された北海道の名産品を Get してくる、スカベンジャーハント型ツアー！！各組のドライバがスマホアプリのサイコロを振り、出た目でミッションが決まります。14 時にはセゾンクラブというところでバームクーヘンを焼く体験学習付き♪

用意されていたミッションは以下の通り。

### 1. 小樽組

- \*なるとの若鶏
- \*田中酒造の地酒 宝川
- \*あまとうのマロンコロン（※余裕があれば）

### 2. 余市組

- \*燻製屋の燻製（おまかせ）
- \*余市ワイン ケルナー

### 3. ニセコ組

- \*チーズ工場のチーズ（ストリング、ゴーダ、カビ）
- \*ニセコワイン ナイアガラ

### 4. 真狩（まっかり）組

- \*名水豆腐（おぼろ豆腐、枝豆腐）
- \*美味しいお水

### 5. 中山峠組

- \*中山峠からの羊蹄の写真
- \*あげいもの写真
- \*キノコ王国 キノコ辛味噌ラーメンの写真
- \*鮭ぶし（※余裕があれば）

私のいた sappokori さん（ドライバ）班は【余市組】！！

密かに今回のニセコツアーで狙っていた燻製ゲットできるチャンス到来！（\*ω\*）v やった！

そして札幌から余市までの遠い道のりに、心が折れ小樽で小休憩です。当日はいい天気にも恵まれ、

車内が暑くてつい…

小樽の不思議なアイスクリーム【北のアイスクリーム屋さん】

前回駐車場で悶絶しながら某リさんが食べていた納豆とウニ、イカスミにバラと怪しいメニューをチョイス！



\*イカスミ（上）バラ（下）の図。見た目セメントに近い色ですが、しっかりイカスミ味

私たちの後に来たアジア系カップルはなぜか二人ともイカスミを食べて口の中真っ黒なのを見せ合いっこしていました。すると慌てて口の中をチェック！どうやらほのかなバラ色のおかげでセーフだったようです。

小樽での小休憩を終えて、いざ余市の燻製屋さんへGO！！

昨年は夕方に立ち寄ったので、品数が少なかったのですが、今回は大量♪…定番のぺったら、カリカリで美味しい甘エビ、チーズのような豆腐、みんな大好き燻製卵、ちょっと変わり種で枝豆などをチョイスしました。吉と出るか凶と出るか…お土産用には、ニシンをゲット！まずは一つ目の【燻製】ミッションクリアだぜ！

そしてこの時既にお昼を回っていたので、近くでランチを…と探していたら、燻製屋さんの隣に燻製ランチを出してくれる「燻香廊」なるお店が！時間があったら寄りたかったのですが、既に何組も待っていて断念orz



この美味しそうなおモークの文字！どれも魅力的 (つ\_T)

後ろ髪を思い切り引かれつつ、次の【余市ワインケルナー】を調査。

無いかも？と思いつつ、ニッカウヰスキー工場へ！ミッションとは別に、他の班からお遣いを頼まれていたので、ふらりと寄る。工場見学そっちのけで兎にも角にも売り場へ急げとダッシュ！お遣いを終えて、早々と余市ワイナリーへ… (実はニッカウヰスキーにケルナーがあったと他の班から後で聞きました。とほほ)

そんなこととは露知らず、余市ワイナリーを探して車を発進させる…が出てこない！乗車メンバーでキョロキョロ探しては来た道を引き返す。でやっとご到着！



畑の真ん中にぽつんと立つ、余市ワイナリー♪ そりゃ見つからないって (^\_^) ;

こうして【余市ワインケルナー】もゲット♪ 購入特権でナイアガラアイスをプレゼントされ、急いで食べる！

先のアイスクリーム屋さんで、非常に残念な納豆&ウニでがっかりしていたメンバーも、ナイアガラアイスで脱がっかり！良かったね(^\_^) ;

しかしこの時、そんな悠長なことをしている場合ではなかったのです。(┐┌) ;

ナイアガラアイスを頼張りつつ、時計を見たら、バームクーヘンのタイムリミットまであと30分！

ここから車を飛ばしても1時間以上。(┐┐) ; 遅刻はまず確定。そしてまだお昼を食べていない状況。流石にアイスがお昼ご飯はないですし。今回のメンバーでは私を含めて食後のお薬が必須な人が2名。…で、採決した結果、数分もかからずにお昼ご飯で全員一致。すみません。脱落理由はお薬でしたorz しっかりお薬飲んでから、急ぎでニセコセゾンクラブへ！

ニセコセゾンクラブに着くまでにもやや迷子になりつつ、どうにか到着すると、既に他の班の方はバームクーヘンを作り終え、施設のお兄さんに切り分けて貰いながら、出来栄の講評を受けていました。

北の塾長と愛の共同作業(バームクーヘンをくるくる回しながら焼く)で時間をかけすぎて、やや硬めに仕上がったり、生地を棒に塗る際に押し付け過ぎてギヤートルズの肉みたいになっている班もあったようです。(古っ) 最後にみんなで分け分けしながら大試食会！



出来立てほかほかバームクーヘンを切りながら審査員のお兄さんの講評トーク。美味しそう～(┐┐) じゅるっ

どういう流れなのか、焼きリングを作った班もあって、アツアツとろとろの焼きリングも振る舞われていました。ちゃっかりご相伴に預かりますw みんなで何かを作るのはいいですねー。一体感が

生まれるし、何より楽しいし、自分で作ったものだからどんな結果であってもやっぱり美味しいですよ。

(作ってないお前が言うなど…すみません orz)

コンテスト終了後は、宿泊地のニセコ宿泊先行きか、温泉行きかで二手に分かれました。後で聞いた話ですが、温泉組は女子が来ないと思って混浴をチョイスしていたとか。。。実際はツアー参加女子の半数が温泉に流れました。果たして男性陣の夢が実現したのでしょうか？はてさてw



セゾンクラブから見えた、ぼっかりお月さまと羊蹄山の頭♪

それぞれの組が宿泊所に集まったところで、お待ちかねの夕飯タイム！いつものアレ！ジンギスカンの登場です♪



ででーん！

ビール片手にカンパニー♪

そしてこの夕飯タイムでは、本日のミッションで獲得された「なるとの若鶏」が振る舞われました。実は購入時は焼き立てほかほかで、運搬する車内

は強烈なから揚げ臭を放っていたとかwひとしきりジンギスカンを堪能した後は、いよいよニセコナイト☆フィーバー！

夕食後はロビーに集まって、ゆったり大人の酒盛りタイム♪この日各班がスカベンジャーハントしてきた獲得品のおつまみとお酒で舌鼓♪



落ちそうなほどの戦利品！もう一つテーブルありますw

そして今年一番ヒットした燻製は枝豆でした！世界のナガアツもビックリな美味しさです。ちょっと汁気があるので、お土産にするのは大変ですが美味です！名水やナイアガラもぐびぐび美味しく頂きました。

ほろ酔い気分でテストトークがいろんなところで繰り広げられていました。



北の塾長お話に Masao さん意識が何処かに…Masao さ〜んw

するとコンテスト主催者側の重鎮の方々から、一人ひとりお呼び出しがw どうやらコンテストの提出が締め切りぎりぎりだったチームが多かったようで、いきなりの土下座タイムに突入ww

(行列のできる土下座懺悔所ー；)

あとはピリオオバトルのお話やら、おねだり技法やら色んなお話をしながら、楽しい夜が更けていきました。

翌朝は眠気眼を擦りながら、どうにか起床。和食 or 洋食の選択式モーニングを頂きました。あとは、前日のミッション戦利品のメロンのお漬物をぱくりっ甘くなく、瓜に近いこりこりとした触感で意外と美味しかった♪

食後は皆さん荷造りをしてロビーに集合。全員集合までにぼつりぼつりとまったりトーク。前日のミッションで Masao さんが自身の顔より大きい落ち葉を見つけたそうで、目と口の所を切り抜いてお面のように遊んでいたのですが、一晩たって、ややへたって来たようです。パリパリと破片が。。。(^^; お面片手に怪しい Masao 族の舞いを披露しつつ、宿泊地の中庭で涙のお別れの儀です。吹きすさぶ風の中、はらりと手放したお面が、ゆらゆらと空を描いてスローモーションに飛んでいく…はずだったのですが、手を離れた瞬間に、風に叩きつけられ、ぼとりと落ちましたw その瞬間「Masao~(△;)」の大ブーイング。何度かリトライしていましたが、やっぱり Masao さんクオリティで素敵でしたw 全員集合したところで記念写真！…の前に、恒例行事として Ue さんが床にひれ伏し準備万端w

何が始まるかって？もう一つの儀式です！スタンバイOKのUeさんの前に横一列になって女性テストエンジニアが6人。そしてその瞬間を激写しようと遠巻きに男性陣が陣どってカメラを構える。そして誰の合図ともなく、一斉にシャッター音が走りました。



【ギネスに挑戦！同時に女性テストエンジニアに踏まれる！】の図、完成♪ 記録は6名！次回はもっと増えるかも！？

そして今年は一人だけではなく、とある方も一緒に踏まれていました。あまりのおかしさから本人は土下座ならぬ土下寝状態でお腹がひくひく痙攣していましたねw

この状態をUe現象と言うそうです。

(ここ、テストに出ますw\ (´w´) b (嘘))

犠牲者は？と思いきや、続きは来年のニセコツアーで☆ということで、踏み踏み大会終了です♪ 最後は真面目に集合写真をばしゃりっ



正座した女性陣の後ろで、JoJo 立ちの男性陣w

2 日目は小樽散策組と中山峠散策組で分かれて、最後の解散の地、札幌を目指します。

私は中山峠散策組をチョイス！ドライバは nemorine さん♪

何故か同乗者の恋愛傾向を分析する nemorine さんトークが展開されました (ー; この占い師怖いっすw結構合っているかも？ww

中山峠に行く道中、「湧水の里」でお豆腐の試食と美味しい水を頂きました♪



遠くからこのお水を汲みにポリタンク持参の車が多く、トラックでボトルが溢れていましたw

中山峠に着くころには天候が雨でちょっと景色は堪能できませんでしたが、あげいもとソフトク



# Software Test Topics

当番：コヤマン (Magazine 編集部)

こんにちわーw コヤマンどえす。  
やっぱり今回はテスト業界の一大イベントに触れないわけにはいきませんね。  
ということで、イベント紹介です！

## 【イベント】JaSST<sup>®</sup> 13 Tokyo

<http://www.jasst.jp/symposium/jasst13tokyo.html>

開催日：2013年1月30日(水)~31(木)

開催場所：目黒雅叙園

参加費：

1日券：5,250円

2日券：8,400円

チュートリアル 1-1 受講券：5,250円

チュートリアル 1-2 受講券：5,250円

チュートリアル 1-3 受講券：5,250円

チュートリアル 2 受講券：15,750円

情報交換会：5,250円

参加申し込み締め切：2013年1月23日(水) 17時

今年もやってきました！JaSST<sup>®</sup> 13 Tokyo！

国内最大級のソフトウェアテストに関するシンポジウムとして毎年1月に開催されるシンポジウムです。

今年は基調講演者に「ソフトウェアインスペクション」および「ソフトウェアテストの基礎：ISTQB シラバス準拠」を共同で執筆し、ISTQB Foundation Level シラバスの策定に携わった Dorothy Graham 女史を招聘！

「ソフトウェアテストのチャレンジ」というテーマでお話していただけるみたいですよ！

また、招待講演には株式会社 SRA 創業者の一人で同社最高顧問、日本におけるソフトウェア工学実践のパイオニアである岸田孝一氏の名が！

ソフトウェアテストにおける無形労働 (Immaterial Labor) の考え方についてご講演いただけるようです。

岸田氏といえば日本に Unix を持ち込んだと言われる、ソフトウェア工学業界では世界的に有名な方です。その岸田氏が、現在研究しているテーマが「無形労働」これは目が離せませんね！

また、今年は論文、経験発表、事例発表の他、さまざまな企画が用意されています！

<http://www.jasst.jp/symposium/jasst13tokyo/timetable.html>

◆テスト開発方法論

◆テスト自動化

◆アジャイル開発とテスト

◆初心者向けミニチュートリアル

◆チュートリアル 1-1:探索的テスト

◆テクノロジーセッション

◆チュートリアル 1-2:Wモデル実践

◆論文発表

◆事例発表

◆Test. SSF

◆不具合情報

◆テストのグローバルソーシング

◆エンターテインメントとテスト

◆チュートリアル 1-3:モデルベースドテスト

◆テスト設計コンテスト

◆エンタープライズのテスト

◆ライトニングトークス

◆チュートリアル 2:テスト自動化とマネジメント

ざっと出ただけでもこれだけのテーマを取り扱うのはこの JaSST Tokyo を置いて他にはありません。

どこに行くか迷ってしまいますね！  
皆さんはどこに行くか決まりましたか？

是非、ご参加くださいね♪

このコーナーでは、書籍やイベントの情報を募集しています。

例えば、「来月勉強会とか OFF 会とか開催するんだけど掲載してくれない？」といったものでも OK です。

開催地も、日本全国津々浦々、どこでもかまいません。

情報をお待ちしております m(\_ \_)m

# 開 運

## 源太郎の ソフトウェアテスト占い

※「ソフトウェアテスト占い」とは…  
日本の伝統的な暦で知られる気学(九気性)をもとに、日本古来の統計学とソフトウェアテストで培った時代の統計学を組み合わせ考察された占いである！(笑)

	生まれ年	12月の運勢 (12月8日~1月5日)
一白水星	S38/S47/S56/H2	本月は、年盤・月盤ともものに相性となり、 <b>今年最高の運気</b> です。ただし坤宮に会しているために、 <b>物事の動きがゆっくり</b> になるであろう。 <b>諸事、焦らず、奢らず、丁寧</b> に対応するべし。 <b>後輩・部下のフォロー</b> が吉なり。
二黒土星	S37/S46/S55/H1	月盤中宮とは相克なれど年盤中宮と相性なため、 <b>運気はほどほど</b> なり。震宮に会しているために、 <b>物事を始めるには良い月</b> なり。また月盤中宮の影響により、さまざまな <b>事業・仕事・企画</b> と縁が <b>紡がれる</b> であろう。
三碧木星	S36/S45/S54/S63	巽宮に会し本命星に大きく影響を受ける月になるであろう。また <b>暗剣殺も受けている</b> ので、 <b>空回りしていると感じる</b> ことも多いであろう。ただし <b>縁を結ぶには良い月</b> なので、来年への準備期間と思い <b>焦らず過ごすことが吉</b> 。
四緑木星	S35/S44/S53/S62	本月は中宮に会しているために、 <b>全体を見直すには良い月</b> なり。もともとの巽宮に三碧が同会しているために、 <b>物事が動きだすと転がり落ちる</b> ような状態になるであろう。さまざまな <b>縁が紡がれるので取捨選択をしっかりと</b> 。
五黄土星	S34/S43/S52/S61	月盤中宮と相克なれど年盤中宮と相性かつ乾宮に会しているなために、 <b>運気はほどほど</b> なり。乾宮の影響により、 <b>自己中心的になりがち</b> なので、注意すべし。物事を俯瞰してみると <b>謙虚であることが吉</b> なり。
六白金星	S33/S42/S51/S60	兌宮に会しているために、 <b>実り多き月</b> になるであろう。ただし併せて <b>出入りの大きい月</b> なので、収支をよく考えて赤字が先行しないように、 <b>財布の口をしっかりと引き締めることが肝要</b> なり。
七赤金星	S32/S41/S50/S59	本月は艮宮に会しているために、 <b>運気は好調</b> なり。ただし「山」の卦象の影響を受けて、 <b>いろいろなものに手を出したくなる</b> ので、 <b>慎重に行動すべし</b> 。 <b>転職・転業・移転の話も多く</b> ありますが、 <b>即断即決しないことが吉</b> なり。
八白土星	S31/S40/S49/S58	月盤中宮と相克なれど年盤中宮と相性かつ離宮に会しているために、 <b>運気は好調</b> なり。見た目華やかなれど、 <b>中身は空虚な月</b> になるであろう。本月は <b>見栄を張らずに足元の強化を心掛けて堅実に動くことが吉</b> なり。
九紫火星	S30/S39/S48/S57	坎宮に会しているために、 <b>運気は低迷気味</b> の月になるであろう。本月は <b>泥沼にとらわれた</b> ような感覚を感じることにが多々あるであろう。ただし <b>力を育むには良い月</b> なり、無理に物事を進めるよりも <b>鍛練・勉強するが吉</b> 。

月盤 四緑木星				年盤 六白金星			
南				南			
暗剣殺							
	3	8	1		5	1	3
東	2	4	6	西	4	6	8
	7	9	5		9	2	7
			五黄殺				暗剣殺
			北				北

### ◆今月のチェックポイント！

今月は「四緑木星」が中宮となり、【風】の卦象の影響により「迷い」「信用」の月です。今年の本命星である「六白金星」影響により、物事が俯瞰的に見える年でもありますので、見えすぎてしまうがゆえに、「迷い」が発生しやすい月になるでしょう。ただし「縁」を紡ぎ「信用」を育むには、良い月です。本月においては「迷い」「悩んだ」時には、「信用」できる年長者・仲間に相談すると良いでしょう。

### ★今月のラッキーテストアイテム

「四緑木星」は「柔軟性」「信用」の特徴がある星です。テストでの信頼性とは何でしょうか？  
柔軟に対応し信頼性を担保するためにどのようにテストを計画・設計していますか？  
「テストカバレッジ」について考えてみませんか？

## お知らせ

1月5日(日)に WACATE-Magazine vol.45 発行します!(たぶん)

今回は「WACATE2012 冬レポート!」かな?

# 来たれ! 投稿戦士!

WACATE-Magazine では“ソフトウェアテストや品質に関する記事”を常に募集中です。

来たれ! 投・稿・戦・士!!!

WACATE-Magazine はボランティアベースで発行されています。したがって原稿料は出ません。※ノーギャラです。

投稿いただいた原稿の掲載可否、掲載時期については編集部で決定させていただきます。

特定の商用ツールやサポートなど営利色が強い原稿は原則として掲載いたしません。

レイアウトなどは全て編集部で行います。また、特に戻り確認などは行いません。

単なる論文は掲載しません。紙面の雰囲気を読んだ、イイ感じな文体や内容をお願いします。

公序良俗に反すると思われるものについても掲載しません。

以上を了解した上で、覚悟完了! の方は WACATE-Magazine 編集部「[magazine@wacate.jp](mailto:magazine@wacate.jp)」まで、是非ご連絡ください。

折り返し、担当より要綱をご連絡いたします。

楽しい、そして役に立つ紙面にするため、是非ご協力いただければ幸いです♪

## ☆その他、WACATE-Magazine では以下の情報をお待ちしています☆

- 書籍情報(オススメ書籍情報も可)
- イベント情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
- 勉強会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- オフ会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
- デザート情報(甘いものならなんでも。イカス! やつで。)

などなど、お待ちしております♪



来たれ  
次世代の  
戦士達よ!!

WACATE実行委員募集中♪

## ★★★ WACATE 実行委員募集中 ★★★

### 編集後記

いのみん★風邪流行ってますねー。マスク装備で防御力+1です♪

うえだ★キャー、WACATE2012 冬までもうすぐだわ~(≧▽≦)

あたべ★この冬はテスト設計コンテストとスキーを頑張ります! ♪

コヤマン★寒くなってきましたが、冬の三浦で熱くなりましょー!

ぼんぼん★今週末はまた流星が見られるかなあ? ! お嬢様がた、騒ぎすぎにご注意をw

おらかみ★だいが寒くなりましたね、皆さん、風邪などひかないようご自愛ください!

★あくづい★

2012/12/12(wed)はっころ  
WACATE-Magazine へんしゅろ

☑[Magazine@wacate.jp](mailto:Magazine@wacate.jp)  
<http://wacate.jp/Magazine/>